

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	佐賀大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	サガダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	九州地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	チャレンジ・インターンシップA・B
	学部・研究科等名	全学教育機構
	担当教職員名・役職	皆本晃弥・教授
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	10	
受入企業等数	11	
受入企業等名	株式会社アイセル、株式会社九州コーユー、株式会社フィロソフィア、佐賀市役所、武雄市役所、NPO法人愛未来、NPO法人カンボジア教育支援フロム佐賀、NPO法人佐賀県CSO推進機構、NPO法人地球市民の会、NPO法人とす市民活動ネットワーク、NPO法人 Succa Senca	
インターンシップの分類	6.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業にあるデータを分析したり、Webページのデザインなどを検討し、事業改善やグロースハックを図るための企画・立案を行い、役員や担当者等の前でプレゼンテーションを行う。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次~4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	Aは1単位、Bは2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	低学年を対象に、後期の土日や平日の夜を活用して、総時間45時間のインターンシップを教養教育科目「チャレンジ・インターンシップA」、総時間90時間のインターンシップを教養教育科目「チャレンジ・インターンシップB」として、それぞれ実施している。これらの科目では、学生に企業実務等を経験させることにより、将来の職業選択に向けての準備や新たな学習意欲の喚起を図ることを目的とする。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 4.その他
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	インターンシップに関するアンケートを実施したり、インターンシップの最終日に成果発表をさせたりして、身についた力を自覚できるように促している。
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	教職員がほぼすべての日程に参加し、学生の取り組み状況を見るとともに、企業担当者や学生と面談・意見交換をしている。

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	企業と協力して作成したルーブリックやシラバスの説明を行い、インターンシップの目的や身に付けるべき能力を明示している。また、インターンシップで必要となるコンピュータ設定を行う等の課題を課している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	参加者全員が個人あるいはグループ単位で担当社員の前で、成果発表を行っている
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	教職員がほぼすべての日程に参加し、学生の取り組み状況を見るときともに、企業担当者や学生と面談・意見交換をしている。また、企業担当者や学生に対して、グループワークの際のグループ編成に関するアドバイスやグループ運営のアドバイスなども行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	ルーブリックによって、身についた力を企業とともに評価している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	Aは5日間、Bは10日間
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	チャレンジインターンシップAにおいては、株式会社アイセル、株式会社九州コーユーがそれぞれ22.5時間を担当し、全体で45時間のプログラムとして実施し、インターンシップをマイクロソフトイノベーションセンター佐賀で行った。また、株式会社フィロソフィアでは単独で45時間のプログラムを実施した。また、チャレンジインターンシップBにおいては、佐賀市役所、武雄市役所、NPO法人愛未来、NPO法人カンボジア教育支援フロム佐賀、NPO法人佐賀県CSO推進機構、NPO法人地球市民の会、NPO法人とす市民活動ネットワーク、NPO法人Succa Sencalにおける10日間のインターンシップと、事前研修を合わせて、全体で90時間のプログラムとして実施した。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している 6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	プログラムの設計段階から企業に参画していただいている。また、ルーブリックも企業と大学が連携して作成している。さらに、インターンシップをマイクロソフトイノベーションセンター佐賀で行うとともに、すべてのインターンシップに教員も立ち会うことで、受け入れに係る負担感の軽減に努めている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/ext_syllabus/syllabusSearchDirect.do?nologin=on
問い合わせ先	大学等名	佐賀大学
	担当部署名	学務部教務課
	担当者役職名	係長(教養教育教務主担当)
	担当者氏名	出雲大輔
	電話番号	0952-28-8817
	メールアドレス	kyoyokyo@mail.admin.saga-u.ac.jp